

第二條 身體検査ハ學校醫ヲシテ之ヲ行ハシムベシ

學校醫ナキトキ又ハ學校醫身體検査ヲ行ヒ難キ事情アルトキハ他ノ醫師ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

學校齒科醫ヲ置キタル學校ニ在リテハ齒牙ノ検査ハ學校齒科醫ヲシテ之ヲ行ハシムベシ

學校職員、學校看護婦其ノ他適當ナル者ヲシテ身體検査ノ一部ヲ補助セシムルコトヲ得

第三條 身體検査ハ毎年四月ニ之ヲ施行スベシ但シ止ムヲ得ザル場合ニ於テハ身長、體重、胸圍、坐高ノ測定ヲ除キ六月末日迄ニ之ヲ施行スルコトヲ得

第四條 身體検査ハ左ノ項目ニ就キ之ヲ施行スベシ

身長、體重、胸圍、坐高、榮養、脊柱、胸廓、眼、耳、鼻及咽頭、皮膚、齒牙、其ノ他ノ疾病及異常

前項目ノ外必要ト認メタル事項ハ特ニ検査ヲ行フコトヲ得

第五條 身體検査ハ左ノ各號ニ準據シテ之ヲ施行スベシ

一 身長、體重、胸圍及坐高ハ「センチメートル」、體重ハ「キログラム」ヲ以テ單位ノ下一位ニ止メ四捨五入法ヲ用フベシ

二 身長ノ測定ハ足袋、靴等ヲ脱シ兩踵ヲ密接シ背、臀部及踵ヲ尺柱ニ接シテ直立シ兩上肢ヲ

體側ニ垂レ頭部ヲ正位ニ保チ之ヲ測定スベシ

三 體重ハ著衣ノ儘測定シタルトキハ其ノ衣服ノ重量ヲ控除スベシ

四 胸圍ハ起立ノ姿勢ニ於テ兩上肢ヲ自然ニ垂レシメ背面ハ肩胛骨ノ直下部、前面ハ乳頭ノ直上部ニ尺帶ヲ當テ安靜呼吸ノ終レルトキ之ヲ行フベシ乳房ノ著シク膨隆セル女子ニ在リテハ尺帶ヲ少シク其ノ上方ニ當テ測定スルモノトス

五 坐高ハ腰掛ニ正坐セシメ上體ヲ垂直ニ保チ身長ノ測定方法ニ準ジ坐面ヨリ顛頂マデノ距離ヲ測定スベシ

六 榮養ハ皮膚ノ色澤、皮下脂肪ノ充實、筋骨ノ發達等ニ就キ検査スベシ榮養ノ狀態普通以下ニシテ衛生上特ニ注意ヲ要スト認ムルモノヲ「要注意」トシ其ノ他ノモノヲ「可」トシ之ヲ記入スベシ

七 脊柱ハ形態及疾病ニ就キ検査スベシ

形態ハ生理的彎曲ヲ有スル者ヲ「正」トシ異常アル者ニ就テハ平背、圓背、龜背、側彎等ヲ區別スベシ

疾病ハ特ニ「カリエス」ニ注意スベシ

八 胸廓ハ形態、發育等ニ就キ検査スベシ

異常アル者ニ就テハ扁平胸、漏斗胸、鳩胸等ヲ區別スベシ

九 眼ハ視力、屈折異常、色神及眼疾ニ就キ検査スベシ

視力ハ萬國式試視力表ニ就キ左右ヲ各別ニ検査シ裸眼視力ヲ記入スベシ但シ眼鏡ヲ常用スル者ニ就テハ裸眼視力ノ外更ニ其ノ眼鏡ヲ裝用シタル儘左右ノ視力ヲ検査シ括弧内ニ記入スベシ弱視失明等モ各眼ニ就キ記入スベシ

屈折異常アル者ニ就テハ近視、遠視、亂視ノ種別ヲ各眼ニ就キ記入スベシ

色神ハ異常ノ有無ヲ記入スベシ

眼疾ハ特ニ「トラホーム」ニ注意スベシ

一〇 耳ハ聽力及耳疾ニ就キ検査スベシ

聽力ハ適當ナル方法ニ依リ検査シ障礙ノ有無ヲ記入スベシ

耳疾ハ特ニ中耳炎ニ注意シ耳聾栓塞アルトキハ耳疾欄ニ記入スベシ

一一 鼻及咽頭ハ鼻炎、鼻茸、著膿症、腺樣增殖症、扁桃腺肥大等ニ注意スベシ

一二 皮膚ハ白癬、疥癬其ノ他ノ傳染性皮膚疾患、濕疹、頭蝨等ニ注意スベシ

一三 齒牙ハ齲齒ニ就キ検査シ處置齒、未處置齒ニ分チテ其ノ數ヲ記入スベシ

學校齒科醫ヲ置キタル學校ニ在リテハ齲齒ノ數ハ更ニ乳齒、永久齒ニ分チテ記入シ又齒列異

常其ノ他ノ齒疾ニ就テモ注意スベシ

一四 其ノ他ノ疾病及異常ニ就テハ呼吸器、循環器、消化器、神經系統等ヲ検査シ結核性疾患、腺病、肋膜炎、心臟疾患、貧血、脚氣、脫腸、神經衰弱、言語障礙、精神障礙、骨、關節ノ異常、四肢運動障礙等ノ發見ニカムベシ

第六條 前條ノ検査ヲ終了シタルトキハ全身ノ状態ヲ綜合考察シ身體虛弱、精神薄弱又ハ疾病及異常ヲ有スル者ニシテ學校衛生上特別養護ノ必要アリト認ムルモノヲ「要養護」トシ然ラザルモノヲ「可」トシ概評欄ニ記入スベシ但シ大學、高等學校、專門學校並ニ之ト同等程度以上ノ學校ニ在リテハ之ヲ省略スルコトヲ得

第七條 身體検査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ其ノ結果ヲ本人又ハ其ノ保護者ニ通知スベシ授業免除、就學猶豫、休學又ハ治療、保護、矯正等ヲ要スル者アルトキハ本人又ハ其ノ保護者ニ注意ヲ與ヘ適切ナル處置ヲ講ゼシムベシ

第八條 身體検査ヲ施行シタルトキハ其ノ結果ヲ第一號様式ノ身體検査票ニ記入シ本人在學中之ヲ使用スベシ轉學シタル者アルトキハ學校長ハ前ノ學校ヨリ其ノ身體検査票ノ交付ヲ受ケ使用スベシ

身體検査票ハ學校長ニ於テ之ヲ保管スベシ

第九條 身體検査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ第二號様式ノ身體検査統計表ヲ調製シ其ノ年八月末日迄ニ直轄學校、公立大學、高等學校、專門學校ニ在リテハ文部大臣ニ報告スベシ

第十條 監督官廳若ハ學校長ニ於テ必要ト認ムルトキ又ハ學校醫若ハ學校齒科醫ニ於テ必要ト認メ學校長ノ同意ヲ得タルトキハ適當ナル項目ニ就キ臨時身體検査ヲ行フコトヲ得

第十一條 前各條ニ依ル身體検査ノ外就學、入學ニ關シ身體検査ヲ行フコトヲ得

第十四條 地方長官又ハ直轄學校、公立大學、高等學校、專門學校ノ長ハ學校職員、備人等ノ身體検査ニ關シ必要ナル事項ヲ定ムルコトヲ得

第十六條 特別ノ事情アル場合ハ監督官廳ノ認可ヲ受ケ本令ノ身體検査ヲ行ハザルコトヲ得

附 則

本令ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

學生生徒兒童身體検査規程ハ之ヲ廢止ス

(身體検査票及身體検査統計表様式ハ略ス)

一六、行幸啓ノ節學校職員學生生徒兒童敬禮方 (昭和十二年六月 文部省訓令第二十七號)

行幸啓ノ節學校職員學生生徒兒童敬禮方左ノ通定ム學校長及地方長官ハ本訓令ニ則リ學校職員學生生徒兒童ニ對シ平素周到ナル訓練ヲ施シ以テ敬禮方ニ關シ遺憾ナキ様適當ナル措置ヲ講ズベシ

第一 學校職員及指揮者ノ位置並ニ部隊編成

學校長及職員ハ部隊ヲ編成シ最右翼ニ位置ス

指揮者ハ各部隊ノ右翼ニ位置ス

御車又ハ御召列車ガ左翼ヨリ御通過ノ節ハ前二項中右翼トアルヲ左翼トス

各部隊ノ長サハ地域其ノ他ノ情況ニ依リ一指揮者ノ指揮シ得ル範圍内ニ於テ適宜之ヲ定ム

第二 敬 禮

甲 學生生徒兒童ノ敬禮

一 武裝セル場合

(一) 指揮者ハ豫メ著剣セシメ先乘ガ其ノ部隊ノ先頭ニ差懸リタルトキ「氣ヲ著ケ」ノ號令ヲ下シ御車ガ凡ソ二十五米ノ距離ニ近ヅキタルトキ「捧ゲ銃」ノ號令ヲ下シ御車ガ其ノ部隊ヲ離ルルコト凡ソ十五米ノトキ「立テ銃」ノ號令ヲ下ス

關係法令

(二) 御召列車御通過ノ節ハ指揮者ハ豫メ著剣セシメ御召列車ガ其ノ部隊ヨリ凡ソ千米ノ距離ニ差懸リタルトキ「氣ヲ著ケ」ノ號令ヲ下シ凡ソ百米ノ距離ニ於テ「捧ゲ銃」ノ號令ヲ下シ御召列車ガ部隊ヲ離ルルコト凡ソ六十米ノトキ「立テ銃」ノ號令ヲ下ス

二 武裝セザル場合(女子ヲ含ム)

(一) 立 禮

イ 指揮者ハ先乗ガ其ノ部隊ノ先頭ニ差懸リタルトキ「氣ヲ著ケ」「脱帽」ノ號令ヲ下シ御車ガ凡ソ六十米ノ距離ニ近ヅキタルトキ「禮」ノ號令ニ依リ上體ヲ約三十度前方ニ屈セシメ直ニ「直レ」「頭右(又ハ左)」ノ號令ヲ下シテ目迎目送セシメ御車ガ其ノ部隊ヲ離ルルコト凡ソ十五米ノトキ「直レ」ノ號令ヲ下シテ不動ノ姿勢ニ復セシメ適當ノ時ニ「著帽」「休メ」ノ號令ヲ下ス

ロ 御召列車御通過ノ節ハ指揮者ハ御召列車ガ其ノ部隊ヨリ凡ソ千米ノ距離ニ差懸リタルトキ「氣ヲ著ケ」「脱帽」ノ號令ヲ下シ御召列車ガ凡ソ二百米ノ距離ニ近ヅキタルトキ「禮」ノ號令ニ依リ上體ヲ約三十度前方ニ屈セシメ直ニ「直レ」「頭右(又ハ左)」ノ號令ヲ下シテ目迎目送セシメ御召列車ガ其ノ部隊ヲ離ルルコト凡ソ六十米ノトキ「直レ」ノ號令ヲ下シテ不動ノ姿勢ニ復セシメ適當ノ時ニ「著帽」「休メ」ノ號令ヲ下ス

ノ號令ヲ下ス

(二) 坐 禮

立禮ニ準ズ但シ「氣ヲ著ケ」ノ號令ニテ端坐セシム

坐禮ノ場合ニ於ケル敬禮ハ兩手ノ指ヲ揃ヘ膝前約二十糎ノ所ニ八字形ニ置キ指尖ノ間約十糎トシ上體ヲ前方ニ屈シ額ハ坐面ヨリ約七、八糎ノ所迄下グルヲ度トス

端坐ノ姿勢ハ兩足ノ拇趾ヲ少シク重ねテ坐シ上體ヲ真直ニシ兩手ハ膝ノ上ニ置キ眼ハ前方ヲ正視ス

三 武裝セル者ト武裝セザル者トハ各別ニ部隊ヲ編成スルヲ原則トスルモ兩者ヲ以テ一部隊ヲ編成セザルベカラザルトキハ武裝セザル者ハ一ノ場合ニ於ケル「捧ゲ銃」ノ號令ニ依リ頭右(又ハ左)ヲ爲シテ目迎目送シ「立テ銃」ノ號令ニ依リ元ノ姿勢ニ復スルモノトス

四 御徒歩又ハ御乘馬ノ節ハ一及ニ準ジ適宜之ヲ行フモノトス

乙 學校職員及指揮者ノ敬禮

甲ニ準ズルモノトス但シ指揮者帶刀ノ場合ニ在リテハ刀ニ依ル敬禮ヲ爲スモノトス

丙 校旗ノ敬禮

關係法令

特別ノ場合ヲ除クノ外校旗ノ敬禮ヲ行フモノトス
校旗ノ敬禮ハ指揮者ノ下ス「捧グ銃(又ハ「禮」)ノ號令ニテ校旗ヲ持スル腕ヲ前方ニ伸
シテ目迎目送シ「立テ銃(又ハ目迎目送後ノ「直レ」)ノ號令ニテ其ノ腕ヲ元ノ位置ニ
復スルモノトス

第三 服 裝

甲 制服ヲ着用スルモノトス但シ服制ナキ場合ニ在リテハ概ネ左ノ標準ニ依ル

一 男子職員

(一) 洋服ノ場合

成可ク「フロックコート」又ハ「モーニングコート」、「シルクハット」又ハ黒山高
帽、黒靴トス但シ脊廣服(又ハ詰襟)、中折帽ヲ着用スルモ妨ナシ

(二) 和服ノ場合

成可ク紋附羽織、袴及足袋トス

二 女子職員

成可ク白襟紋服、袴及白足袋トス但シ洋服ヲ着用スルモ妨ナシ

三 學生生徒兒童

清楚ヲ旨トシ和服ノ場合ハ成可ク袴及足袋ヲ着用セシム

乙 「氣ヲ著ケ」ノ號令直前外套、コート、肩掛等ヲ脱ギ傘ヲ疊ミ容儀ヲ整ヘシムベキモノト
ス但シ外套ノ上ニ武裝セル場合ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

丙 雨雪ノ際ハ概ネ雨具着用ノ儘敬禮ヲ行フモノトス

附 則

明治四十三年文部省訓令第十八號行幸啓ノ節學生生徒敬禮方ハ之ヲ廢止ス

◎ 附 錄

一、靜岡高等學校校友會會則

一、總 則

第一條 本會ハ靜岡高等學校校友會ト稱ス

第二條 本會ハ本校訓育ノ方針ニ基キ會員相互ノ情誼ヲ厚クシ心身ヲ修練シ以テ善良ナル校風ヲ振作スルヲ目的トス

第三條 本會ニ左ノ各部ヲ置ク

- ◎ 辯論部 ◎ 文藝部 ◎ 劍道部 ◎ 柔道部 ◎ 野球部 ◎ 庭球部 ◎ 蹴球部 ◎ 陸上競技部 ◎ 水泳部 ◎ 山岳部、
- ◎ 弓道部 ◎ 卓球部 ◎ 籠球部

會員ハ均シク各部ノ部員タリ

第四條 本會ハ本校職員生徒ヲ以テ組織シ職員ヲ特別會員生徒ヲ普通會員トス舊職員及卒業生ハ贊助會員トス

第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

- 會 長 一名 本校長ヲ推戴ス
- 副 會 長 一名 特別會員中ヨリ會長之ヲ委囑ス
- 部 長 各部一名 特別會員中ヨリ會長之ヲ委囑ス但シ代議員ヲ兼ヌルコトヲ得ス
- 副 部 長 必要ナル場合一部一名 特別會員中ヨリ會長之ヲ委囑スルコトヲ得但シ代議員ヲ兼ヌルコトヲ得ス
- 理 事 文科理科各一名 各特別ニ普通會員ノ選舉ニ基キ會長之ヲ委囑ス但シ委員代議員ヲ兼ヌルコトヲ得ス
- 幹 事 必要ナル場合文科理科各二名以内 理事ノ推薦ニ基キ會長之ヲ委囑ス但シ委員代議員ヲ兼ヌルコトヲ得ス
- 委 員 各部各組一名 該組普通會員ノ互選ニ基キ會長之ヲ委囑ス但シ他部委員代議員ヲ兼ヌルコトヲ得ス
- 主務委員 文藝部ニ限り必要止ムヲ得サル場合會長ハ三名以内部長ノ推薦ニ基キ別ニ委員ヲ委囑スルコトヲ得 本項ノ委員ハ主務委員ノ互選ニ加ハラス
- 代議員 各部一名 各部委員ノ互選ニ基キ會長之ヲ委囑ス
- 特別會員中ヨリ五名普通會員中ヨリ各組二名夫々互選ニ基キ會長之ヲ委囑ス

第十七條 代議員會ノ議事ハ豫メ發表シタル事項以外ニ亙ルコトヲ得ス

第十八條 代議員會ノ議決ハ會長ノ認可ヲ得テ効力ヲ生ス

第十九條 副會長部長理事主務委員ハ代議員會ニ出席シ關係事項ニ付キ發言スルコトヲ得但シ表決ニ加ハラズ

第二十條 會員ハ代議員會ヲ傍聽スルコトヲ得

第二十一條 代議員會ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第二十二條 主務委員會ハ理事及主務委員ヲ以テ組織シ理事一名ハ其ノ議長トナル

第二十三條 主務委員會ハ各部事務ノ連絡及統制ヲ協議スルモノトス

第二十四條 主務委員會ノ議ニ付スヘキ事項左ノ如シ

一 豫算案ノ作成

二 決算報告書ノ作成

三 豫備費ノ支出

四 其ノ他理事必要ト認メタル事項

第二十五條 主務委員會ハ理事之ヲ召集ス

第二十六條 主務委員會ハ定數ノ三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議決ヲナスコトヲ得ス其ノ議事ハ出席員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニヨル

第二十七條 主務委員會ノ議決ハ直ニ副會長ニ報告スヘシ

第二十八條 各部ハ本會則ニ反カサル限りニ於テ内規ヲ設ケ主務委員會ノ承認ヲ得テ之ヲ發表スヘシ

第二十九條 本會ニ於テ特別ノ事業ヲ行フニ當リ必要ニ應ジテ特別委員會ヲ設クルコトヲ得

第三十條 特別委員會ノ組織及事業ハ理事原案ヲ作り代議員會ノ議ニ付スヘキモノトス

第三十一條 特別委員會ハ副會長之ヲ監督ス

第三十二條 特別委員會ハ其ノ事業終了シタル後之ヲ代議員會ニ報告シ其ノ承認ヲ得テ解散ス

第三十三條 本會ノ經費ハ會員ノ會費、入會金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨ス

第三十四條 普通會員ノ會費ハ年額金拾壹圓トス

普通會員ハ入學ノ際入會金トシテ金五圓卒業ノ際贊助會費トシテ金五圓ヲ納付スヘシ

特別會員ノ會費ハ別ニ之ヲ定ム

第三十五條 贊助會費ハ本會ノ基本金ニ充ツルモノトス

第三十六條 本會ノ會計年度ハ毎年十月一日ニ始リ翌年九月三十日ニ終ル

書 記 二名 特別會員中ヨリ會長之ヲ委囑ス

第六條 役員ノ任務ハ左ノ如シ

會長ハ本會ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ補佐シテ本會ノ總務ヲ司リ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス

部長ハ其ノ部ヲ監督ス

副部長ハ部長ヲ補佐シ部長事故アルトキハ之ヲ代理ス

理事ハ副會長ノ下ニ總務ニ從事シ且主務委員會ニ列ス

幹事ハ理事ヲ補ケ其ノ事務ヲ行フ

委員ハ夫々部長ノ下ニ部委員會ヲ組織シ其ノ部ノ事務ヲ處理ス

主務委員ハ夫々部委員會ヲ代表シ且主務委員會ニ列ス

代議員ハ會員ヲ代表シテ代議員會ニ列ス

書記ハ庶務會計及記録ノ事務ニ從事ス

第七條 理事委員代議員ノ任期ハ十月一日ヨリ翌年九月三十日迄トス

第八條 役員選舉ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第九條 代議員會ハ代議員ヲ以テ組織ス

第十條 代議員會ノ議決スヘキ事項左ノ如シ

一 豫算ノ協賛

二 決算ノ承認

三 特別委員會ノ設置及解散

四 會則ノ改正

五 其ノ他會長ニ於テ必要ト認メタル事項

第十一條 代議員會ハ所定ノ手續ニ依リ本會ノ運用ニ關シテ建議スルコトヲ得

第十二條 代議員會ハ會長之ヲ召集ス

代議員會ノ召集ハ議スヘキ事項ヲ附シテ少クトモ三日以前ニ發表スルモノトス

第十三條 理事代議員會議長又ハ代議員四名以上若ハ會員四十名以上ハ代議員會ノ召集ヲ請求スル

コトヲ得

第十四條 代議員會ノ召集ヲ請求セントスル者ハ豫メ議案ヲ會長ニ提出スヘシ

第十五條 代議員會ハ議員定數ノ二分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得

第十六條 代議員會ノ議事ハ出席議員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニヨ

第十七條 代議員會ノ議事ハ豫メ發表シタル事項以外ニ亙ルコトヲ得ス

第十八條 代議員會ノ議決ハ會長ノ認可ヲ得テ効力ヲ生ス

第十九條 副會長部長理事主務委員ハ代議員會ニ出席シ關係事項ニ付キ發言スルコトヲ得但シ表決ニ加ハラズ

第二十條 會員ハ代議員會ヲ傍聽スルコトヲ得

第二十一條 代議員會ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第二十二條 主務委員會ハ理事及主務委員ヲ以テ組織シ理事一名ハ其ノ議長トナル

第二十三條 主務委員會ハ各部事務ノ連絡及統制ヲ協議スルモノトス

第二十四條 主務委員會ノ議ニ付スヘキ事項左ノ如シ

一 豫算案ノ作成

二 決算報告書ノ作成

三 豫備費ノ支出

四 其ノ他理事必要ト認メタル事項

第二十五條 主務委員會ハ理事之ヲ召集ス

第二十六條 主務委員會ハ定數ノ三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議決ヲナスコトヲ得ス其ノ議事ハ出席員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニヨル

第二十七條 主務委員會ノ議決ハ直ニ副會長ニ報告スヘシ

第二十八條 各部ハ本會則ニ反カサル限りニ於テ内規ヲ設ケ主務委員會ノ承認ヲ得テ之ヲ發表スヘシ

第二十九條 本會ニ於テ特別ノ事業ヲ行フニ當リ必要ニ應シテ特別委員會ヲ設クルコトヲ得

第三十條 特別委員會ノ組織及事業ハ理事原案ヲ作り代議員會ノ議ニ付スヘキモノトス

第三十一條 特別委員會ハ副會長之ヲ監督ス

第三十二條 特別委員會ハ其ノ事業終了シタル後之ヲ代議員會ニ報告シ其ノ承認ヲ得テ解散ス

第三十三條 本會ノ經費ハ會員ノ會費、入會金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨ス

第三十四條 普通會員ノ會費ハ年額金拾壹圓トス

普通會員ハ入學ノ際入會金トシテ金五圓卒業ノ際贊助會費トシテ金五圓ヲ納付スヘシ

特別會員ノ會費ハ別ニ之ヲ定ム

第三十五條 贊助會費ハ本會ノ基本金ニ充ツルモノトス

第三十六條 本會ノ會計年度ハ毎年十月一日ニ始リ翌年九月三十日ニ終ル

- 第三十七條 本會ノ歳入歳出ハ毎年豫算ニ計上スヘシ
- 第三十八條 會計ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム
- 第三十九條 本會則ノ改正ハ會長之ヲ必要ト認メタル場合又ハ理事若ハ代議員六名以上若ハ會員六十名以上ノ請求アリタル場合ニ於テ所定ノ手續ニ依リ代議員會ノ議ニ付スヘシ
- 前項ノ場合ニ於テハ代議員會ハ其ノ定數ノ三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得ス出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非サレハ改正ノ議決ヲナスコトヲ得ス

二、會計細則

- 第一條 會費入會金其ノ他一切ノ收入ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トス但シ普通會員ノ會費ハ十月ヨリ翌年三月迄ヲ金五圓、四月ヨリ九月迄ヲ金六圓ト區分シテ計上スヘシ
- 第二條 普通會員ノ會費ハ年額金拾壹圓ヲ第一學期授業料ト共ニ本校會計課ニ納付スヘシ
- 入會金ハ第一學期授業料ト共ニ本校會計課ニ納付スヘシ
- 普通會員ハ卒業ノ際贊助會費ヲ本校會計課ニ納付スヘシ
- 會費納付期限前ニ休學ノ許可ヲ得タル者ハ其ノ學年ノ會費ヲ免除ス
- 既納ノ會費及入會金ハ何等ノ事情アルモ之ヲ返付セス
- 第三條 各部ハ豫算案作製ニ要スル各部豫算原案ヲ九月三十日迄ニ理事ニ提出スヘシ

- 第四條 豫算案ハ理事原案ヲ査定シ主務委員會ニ於テ之ヲ作製シタル後代議員會ノ協賛ヲ經ヘシ
- 第五條 主務委員會ニ於テ豫算ニ關スル代議員會ノ議決ニ承服シ難キ場合ハ會長ノ認可以前ニ於テ理由ヲ附シ代議員會ノ再議ヲ求ムルコトヲ得
- 再議ノ結果ニ關シ尙承服シ難キ場合ハ會長之ヲ決ス
- 第六條 豫算ヲ別テ豫備費總務費各部費トス
- 第七條 豫算ニ於テハ歳入總額ノ百分ノ三以上百分ノ六以内ヲ豫備費トシテ計上スヘシ
- 第八條 豫備費ハ避クヘカラサル豫算ノ不足又ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費途ニ充ツルモノトス
- 其ノ費途及金額ハ理事原案ヲ作成シ主務委員會ノ議ニ付シ直ニ代議員會議長ニ通告スヘシ但シ金額五拾圓ヲ超ユル場合ニ於テハ代議員會ノ議ニ付スルコトヲ要ス
- 第九條 歳入ノ不足カ豫備費ヲ以テ補充スルコトヲ得サル場合ニ於テハ總務費各部費中ヨリ按分シテ補充セシム
- 第十條 歳入超過額ハ凡テ之ヲ豫備費ニ繰入ルヘシ
- 第十一條 總務費ヲ分チテ中央費年中行事費選手派遣補助費トス
- 選手派遣補助費ハ歳入總額ノ百分ノ六ヲ超ユルヲ得ス
- 第十二條 既定豫算ノ變更ヲナサントスルトキハ代議員會ノ議決ヲ經ヘシ

- 第十三條 理事及各部ハ年度末ニ於テ決算報告書ヲ作成シ代議員會ノ承認ヲ受クヘシ
- 第十四條 各年度ニ於テ豫備費總務費各部費ニ剩餘アルトキハ翌年度ノ歳入ニ繰入ルヘシ
- 第十五條 豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及年度内ニ終ルヘキ工事又ハ物品ノ購入若ハ運搬ニシテ避クヘカサル事故ノ爲ニ竣工又ハ納入若ハ運搬ヲ遅延シ其ノ年度内ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越使用スルコトヲ得
- 第十六條 物件ノ購入修理若ハ營繕ヲナシ又ハ旅費報酬ヲ支拂ハントスルトキハ豫算ノ範圍内ニ於テ理事又ハ委員ハ所定ノ請求簿ニ請求月日、品目、數量、單價、金額、供給者、請負者其ノ他必要事項ヲ記入シ副會長又ハ部長ノ檢印ヲ經テ之カ手續ヲナシ毎月二十五日副會長又ハ部長ヨリ會計書記ニ提出スヘキモノトス
- 會計書記ハ前項ノ請求簿ニ依リ直ニ之カ支拂ヲナスヘシ但シ現金支拂ノ必要ヲ生シタル場合ハ隨時之ヲ支拂フモノトス
- 第十七條 理事又ハ委員ハ副會長又ハ部長ノ許可ナクシテ物件ノ供給若ハ請負ヲナサシメ又ハ事項ヲ依頼スルコトヲ得ス
- 第十八條 他地方ヘ出張ノ上支拂ヲ要スルモノハ第十六條第一項ノ手續ヲ履ミ其ノ都度概算拂ヲ請求シ歸校後十日以内ニ之カ精算ヲナシ證據書ヲ添ヘ會計書記ニ提出スヘシ

第十九條 請求簿ハ副會長又ハ部長之ヲ管理ス

第二十條 理事及各部ハ所定ノ物品原簿ヲ備ヘ物品及消耗品ノ品目數量等ヲ記載シ其ノ物件保管ノ責ニ任スルモノトス

第二十一條 副會長理事又ハ部長主務委員ハ夫々立會ノ上二月、九月ニ於テ物品原簿ニ基キ所管物件ノ檢査ヲ行フモノトス

第二十二條 備品使用ニ堪ヘサルニ至リタルトキハ副會長又ハ部長ノ許可ヲ得テ廢棄處分又ハ賣却ニ付スルコトヲ得但シ賣却ニ依リ生シタル金額ハ翌年度ノ歳入ニ繰入ル、モノトス

第二十三條 會計書記ハ所定ノ收入支出簿及支出内譯簿ヲ備ヘ收支ヲ明ニスヘシ

三、役員選舉細則

第一條 總テ選舉手續ハ副會長ノ指示ヲ受ケ理事之ヲ行フ

第二條 次期役員ノ選舉ハ毎年九月十日ヨリ九月二十五日迄ノ間ニ於テ之ヲ行フ

第一學年ニ於ケル役員ノ選舉ハ五月之ヲ行ヒ九月改選ス

第三條 理事選舉ハ左ノ如ク之ヲ行フ

- 一 候補者ハ普通會員ノ推薦ニ依ル
- 二 候補者ヲ推薦セントスル時八十名以上ノ連署ヲ以テ副會長ニ届出ツルコト

- 三 普通會員ハ候補者中ヨリ各科別ニ理事ヲ選舉スルコト
 - 四 單記無記名投票ニ依ル
 - 五 候補者一名ナルトキハ其ノ科ノ選舉ハ之ヲ省略ス
- 第四條 代議員選舉ハ左ノ如ク之ヲ行フ
- 一 理事選舉後各組普通會員ハ代議員二名ヲ互選ス
 - 二 無記名投票ニ依リ候補者二名以下ヲ記入スルコト
- 第五條 委員選舉ハ左ノ如ク之ヲ行フ
- 一 代議員選舉後各組普通會員ハ各部委員一名ヲ互選ス
 - 二 各部委員ハ同時ニ之ヲ選舉ス
 - 三 單記無記名投票ニ依ル
 - 四 二部以上ノ委員ニ當選シタル者ハソノ一ヲ選フモノトス
- 他ノ部ノ委員ハ再選舉ニ依リ之ヲ定ム
- 第六條 主務委員ノ選舉ハ左ノ如ク之ヲ行フ
- 一 委員選舉後各部次期委員ハ其ノ部ノ主務委員ヲ互選ス
 - 二 單記無記名投票ニ依ル

- 第七條 理事ハ開票ニ關スル事務ヲ各組代議員又ハ各部主務委員ニ委囑スルコトヲ得
- 第八條 前條ニ於テ代議員缺席又ハ缺員ノ場合ハ理事ハ該組普通會員ヲシテ代理セシムルコトヲ得
- 第九條 總テ選舉ニハ二名以上ノ立會人ヲ要ス
- 第十條 立會人ハ各組普通會員(主務委員選舉ニ於テハ該部委員)中ヨリ之ヲ定ム
- 第十一條 同點者アル場合ハ決選投票ヲ行フ更ニ同點ナルトキハ抽籤ニ依リテ之ヲ定ム
- 第十二條 理事代議員委員及主務委員ニ缺員ヲ生シタル場合ハ補缺選舉ヲ行フ

四、代議員會細則

- 第一條 代議員會ハ代議員選舉後五日以内ニ議長副議長各一名ヲ互選スヘシ
- 第二條 議長副議長ノ選舉ハ無記名投票トシ同點者アル場合ハ決選投票ヲ行フ更ニ同點ナルトキハ抽籤ニ依リテ之ヲ定ム
- 第三條 議長副議長ハ會長之ヲ委囑ス
- 第四條 議長副議長ノ委囑セラル、マテハ理事一名議長ノ職務ヲ行フ
- 第五條 議長ハ議場ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理シ代議員會ヲ代表ス
- 第六條 會議ニ於テハ議長ノ許可ヲ得タル後發言スルモノトス
- 第七條 議長ハ必要ナル事項ニ付會議ニ於テ關係者ヲシテ説明セシムル事ヲ得

第八條 議長ハ議事整理上必要アリト認メタルトキハ發言ヲ取消サシメ又ハ之ヲ制止シ又ハ之ヲ禁
止スルコトヲ得

第九條 議長事故アルトキハ副議長之ヲ代理ス

第十條 議案ニ關シ動議ヲ提出スルモノアルトキハ一人以上ノ賛成アルニアラサレハ議題トナスコ
トヲ得ス

第十一條 會議ノ結果ハ直ニ議長之ヲ會長ニ報告スヘシ

附 則

從來ノ會則及之ニ附屬スル決議事項ハ其ノ効力ヲ失フ

二、静岡高等学校校友會役員

(昭和十二年六月二十三日現在)

會 長	金 子 健
副 會 長	川 瀨 光 順
辯 論 部 長	小 木 會 恩
文 藝 部 長	松 崎 祐 存
同 副 部 長	稻 村 松 雄
劍 道 部 長	福 原 龍 藏

(在外研究中)
(櫻井部長在外中)

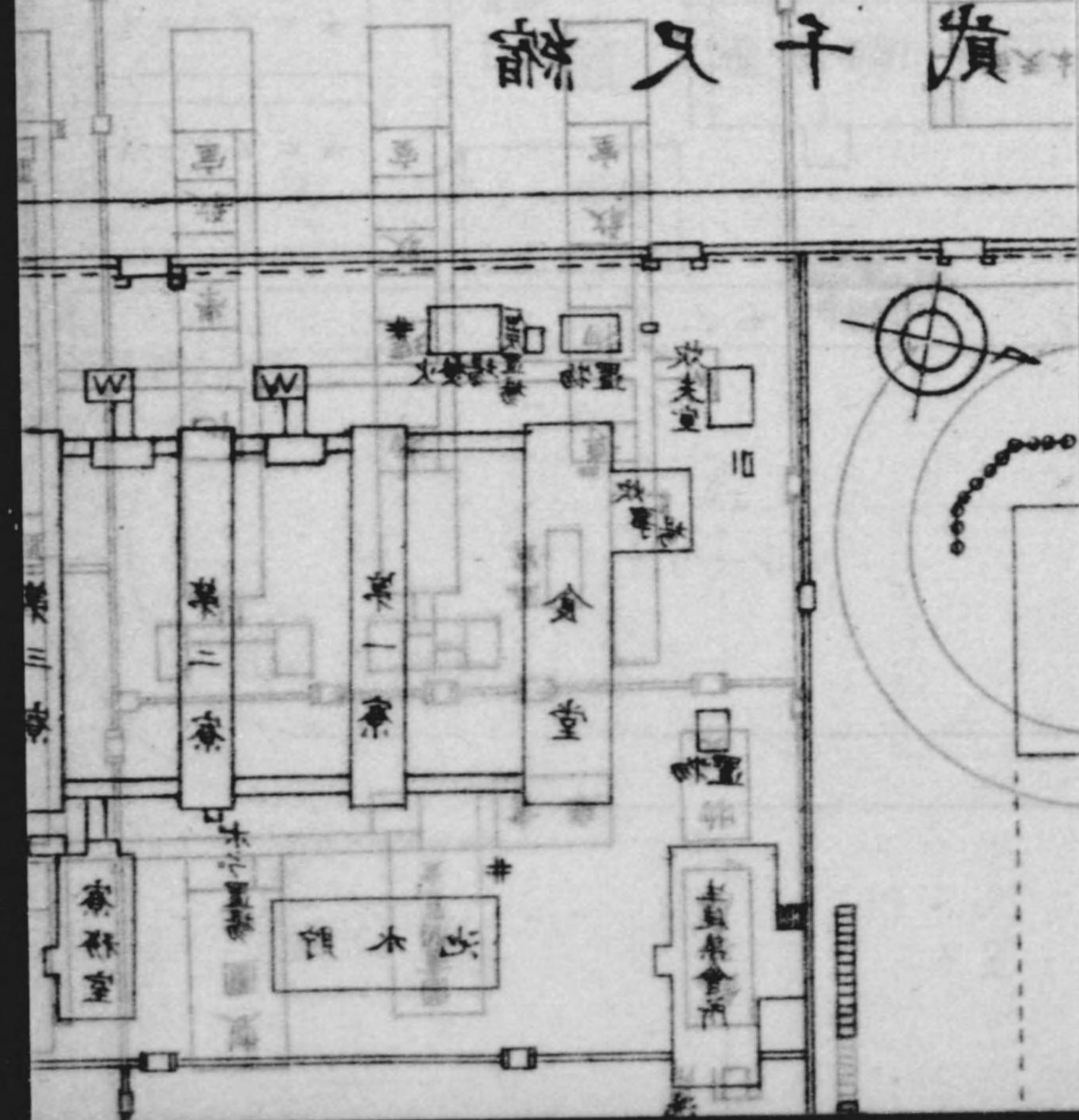
柔 道 部 長	澤 口 剛 雄
野 球 部 長	永 齋 久 雄
庭 球 部 長	金 藤 久 郎
蹴 球 部 長	木 原 村 秀 夫
陸 上 競 技 部 長	志 田 晴 雄
水 泳 部 長	櫻 井 和 市
(山 岳 部 長)	平 塚 錦 平
山 岳 部 長 代 理	池 上 克 巳
弓 道 部 長	久 澤 泰 弘
卓 球 部 長	岡 田 弘 郎
籠 球 部 長	湯 淺 田 五 郎
代 議 員	田 中 經 太 郎
同	木 宮 泰 三
同	佐 木 順 三
同	藤 田 篤 篤

教 授	澤 口 剛 雄
教 授	永 齋 久 雄
教 授	金 藤 久 郎
教 授	木 原 村 秀 夫
教 授	志 田 晴 雄
教 授	櫻 井 和 市
教 授	平 塚 錦 平
教 授	池 上 克 巳
教 授	久 澤 泰 弘
教 授 兼 主 事	岡 田 弘 郎
教 授 兼 主 事	湯 淺 田 五 郎
教 授	田 中 經 太 郎
教 授 兼 主 事	木 宮 泰 三
教 授 兼 主 事	藤 田 篤 篤

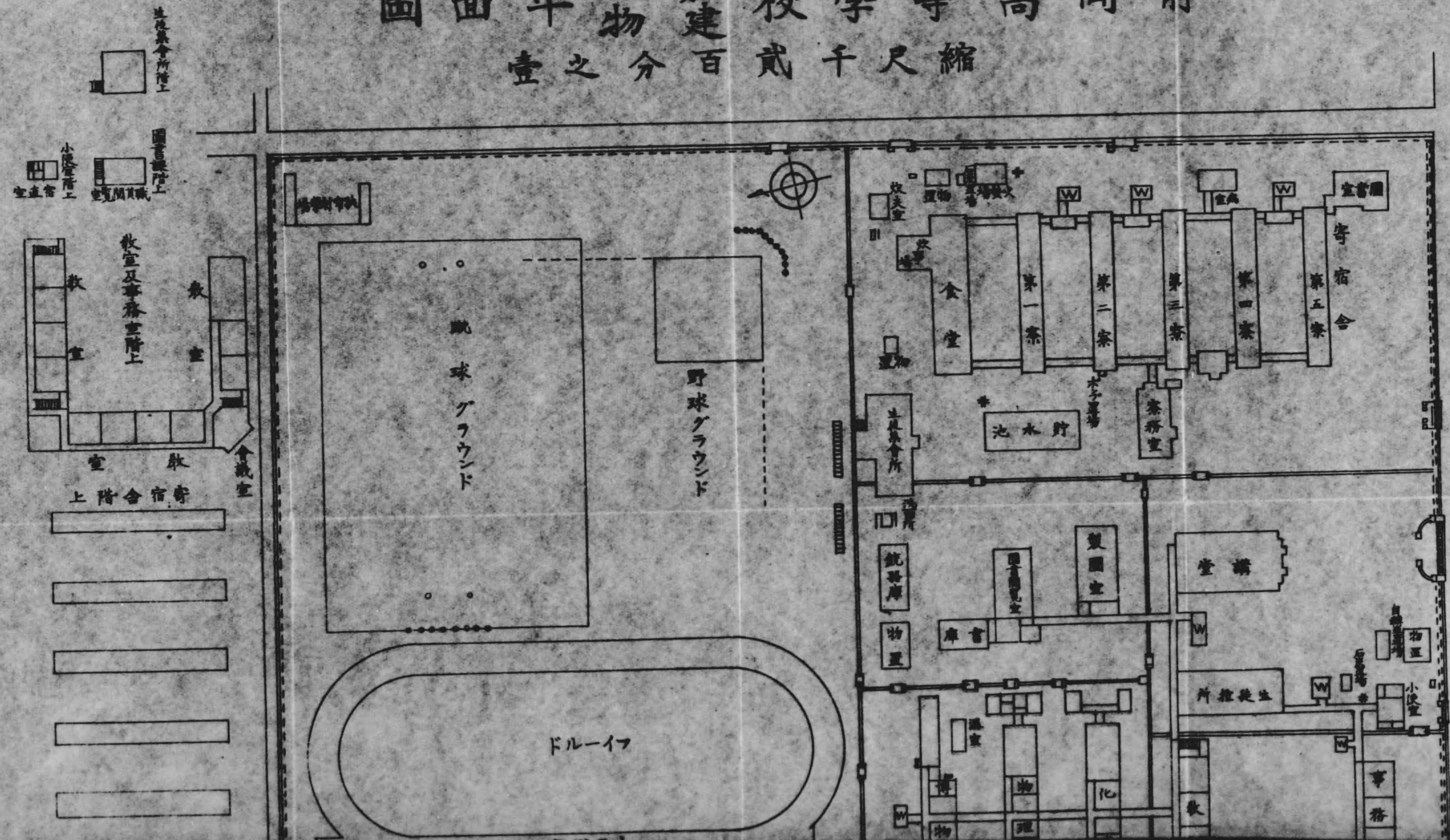
備 考 生徒役員ハ省略ス

青岡高等學苑

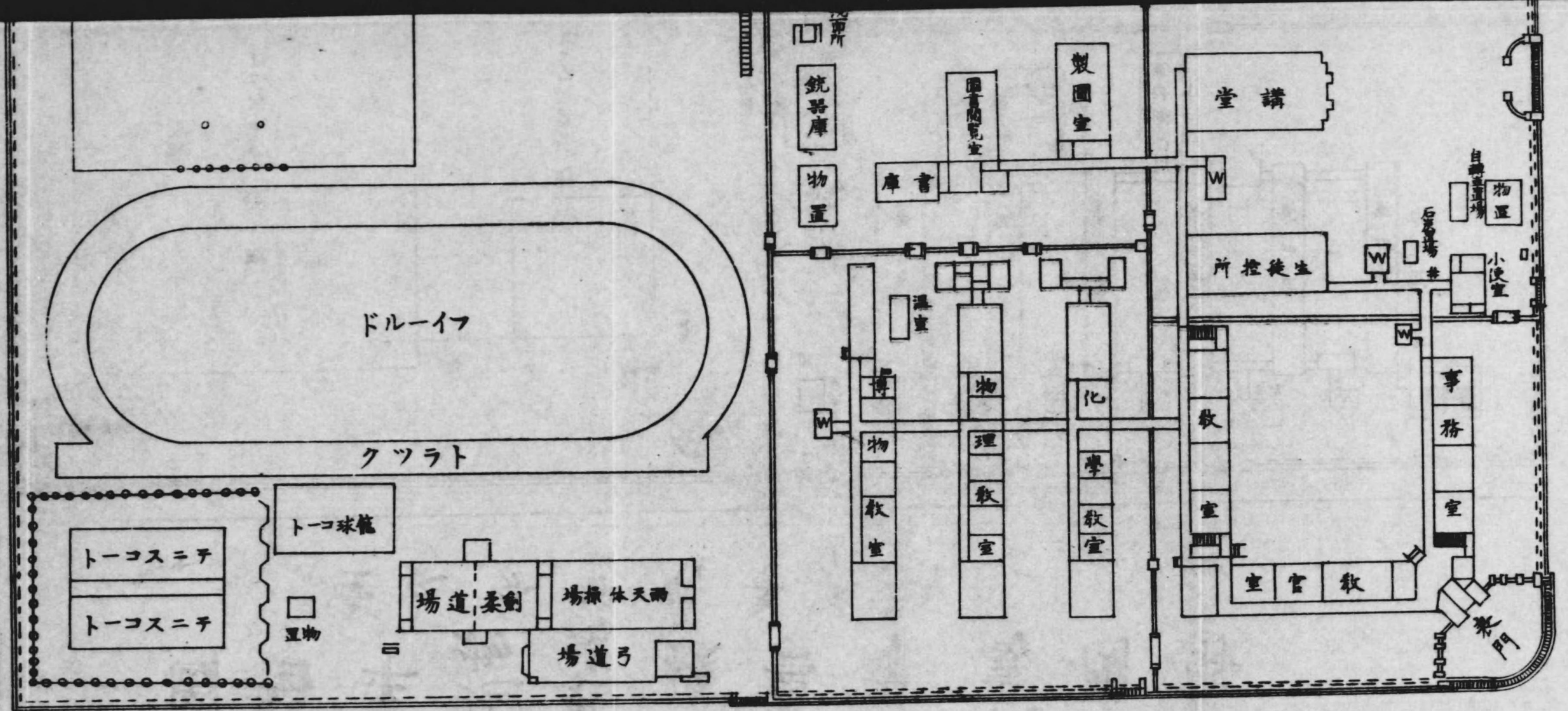
總圖



靜岡高等學校建校地物平面圖
縮尺一千貳百份之一



位 置 普門縣管開市大岩町三丁目
 敷地面積 貳萬百參拾坪
 建物坪數 貳千七百貳拾坪
 延坪 參千六百六拾八坪二〇



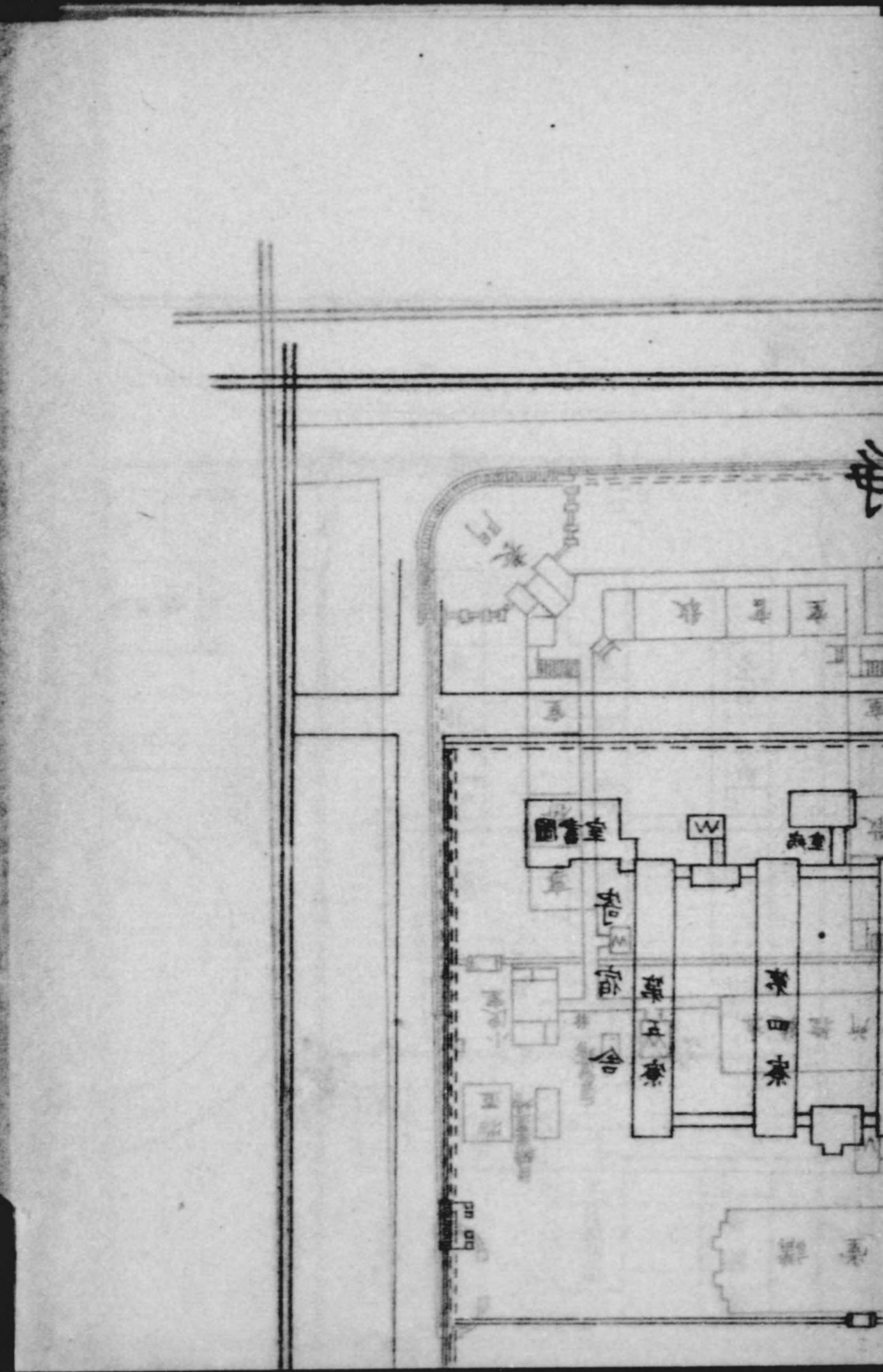
昭和十二年六月廿三日印刷
昭和十二年六月廿六日發行

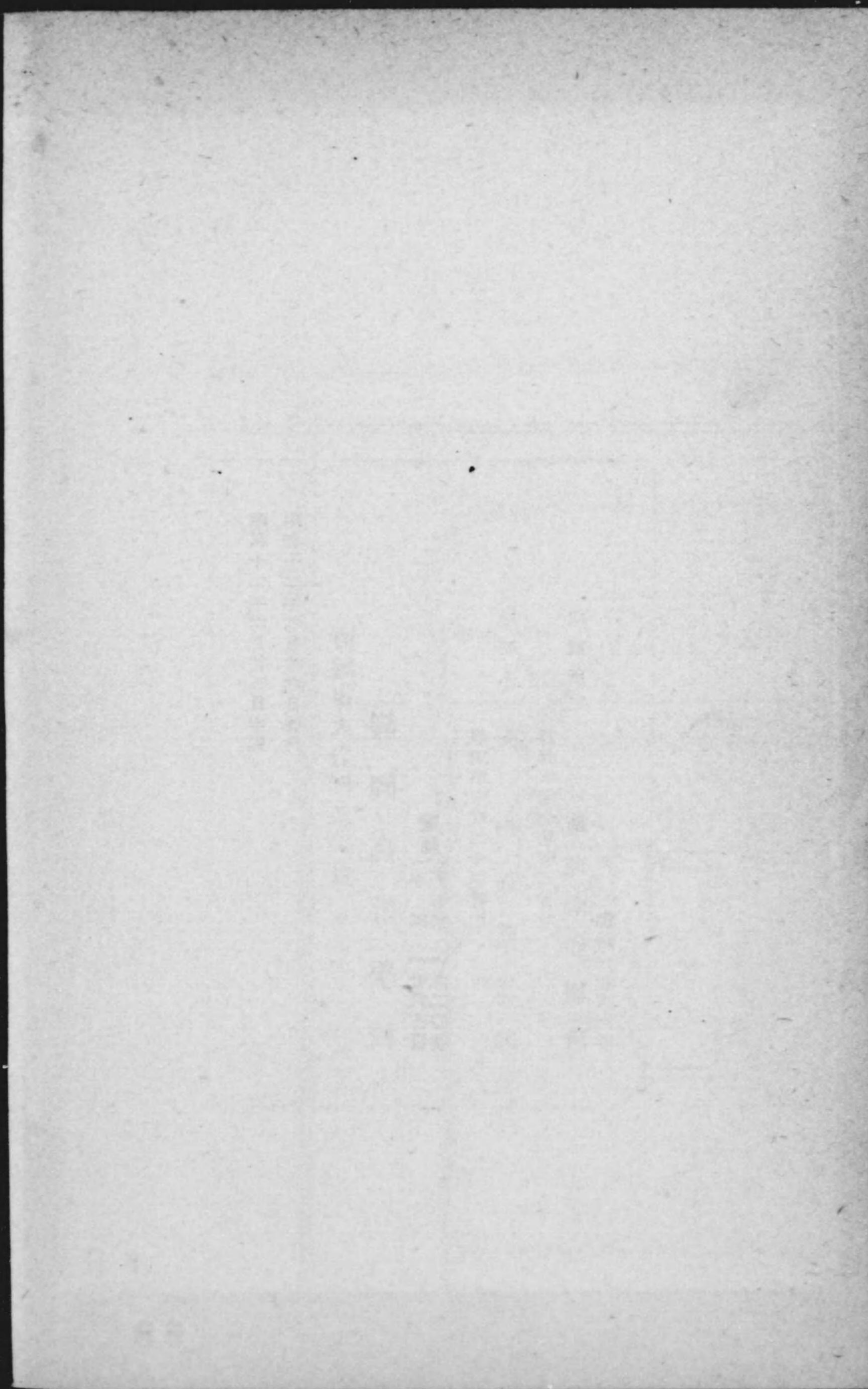
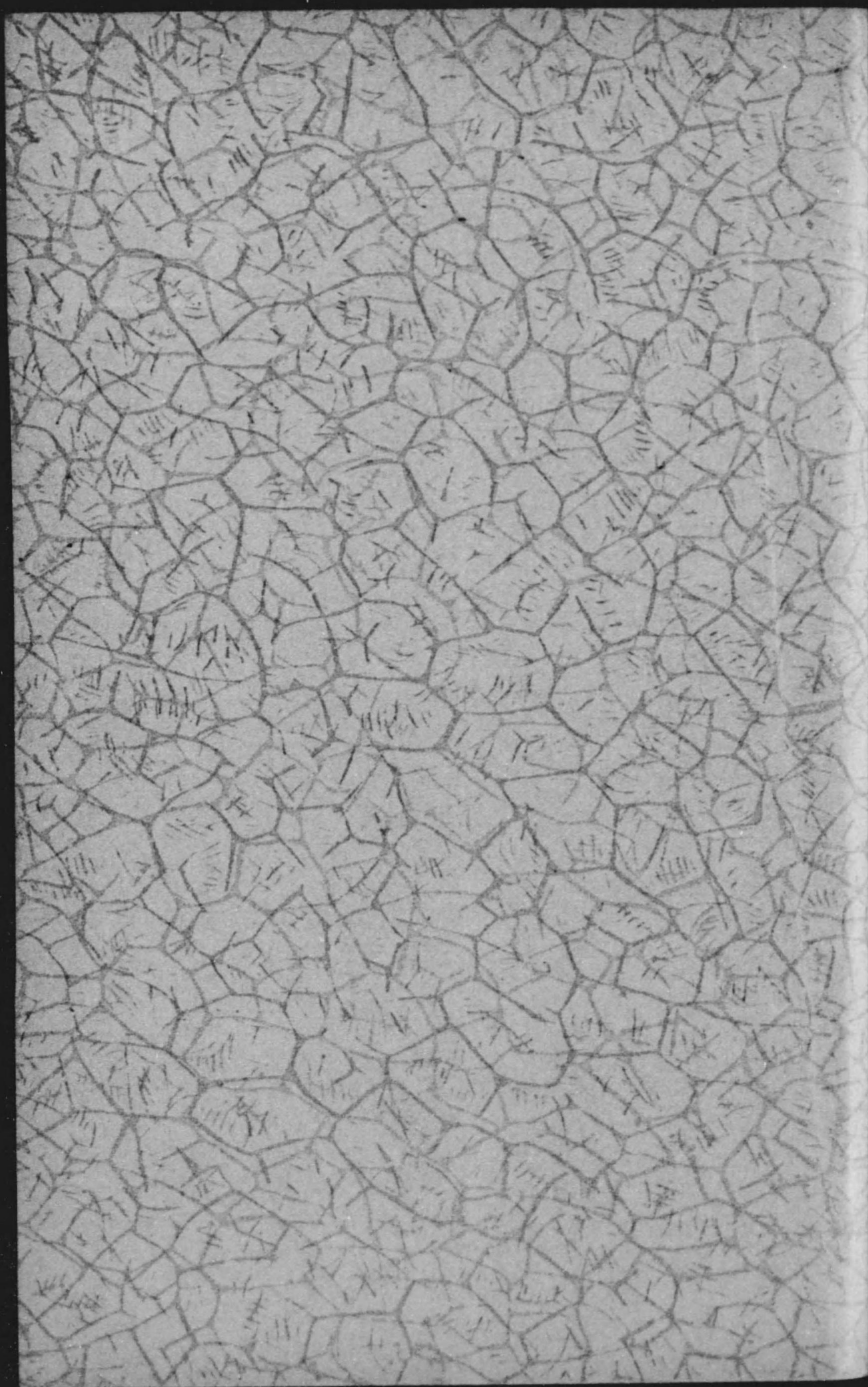
静岡市大岩町二丁目
静岡高等學校

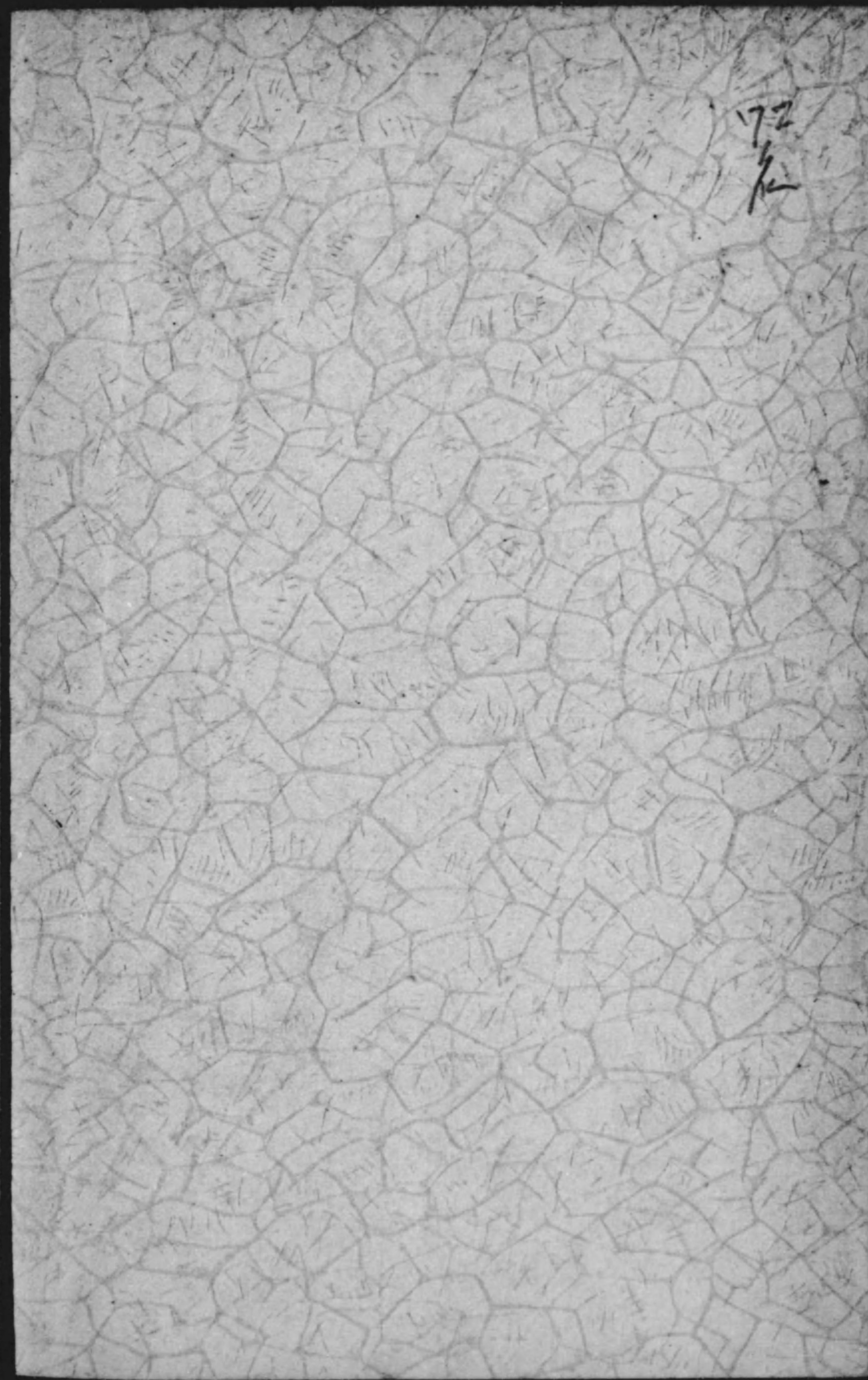
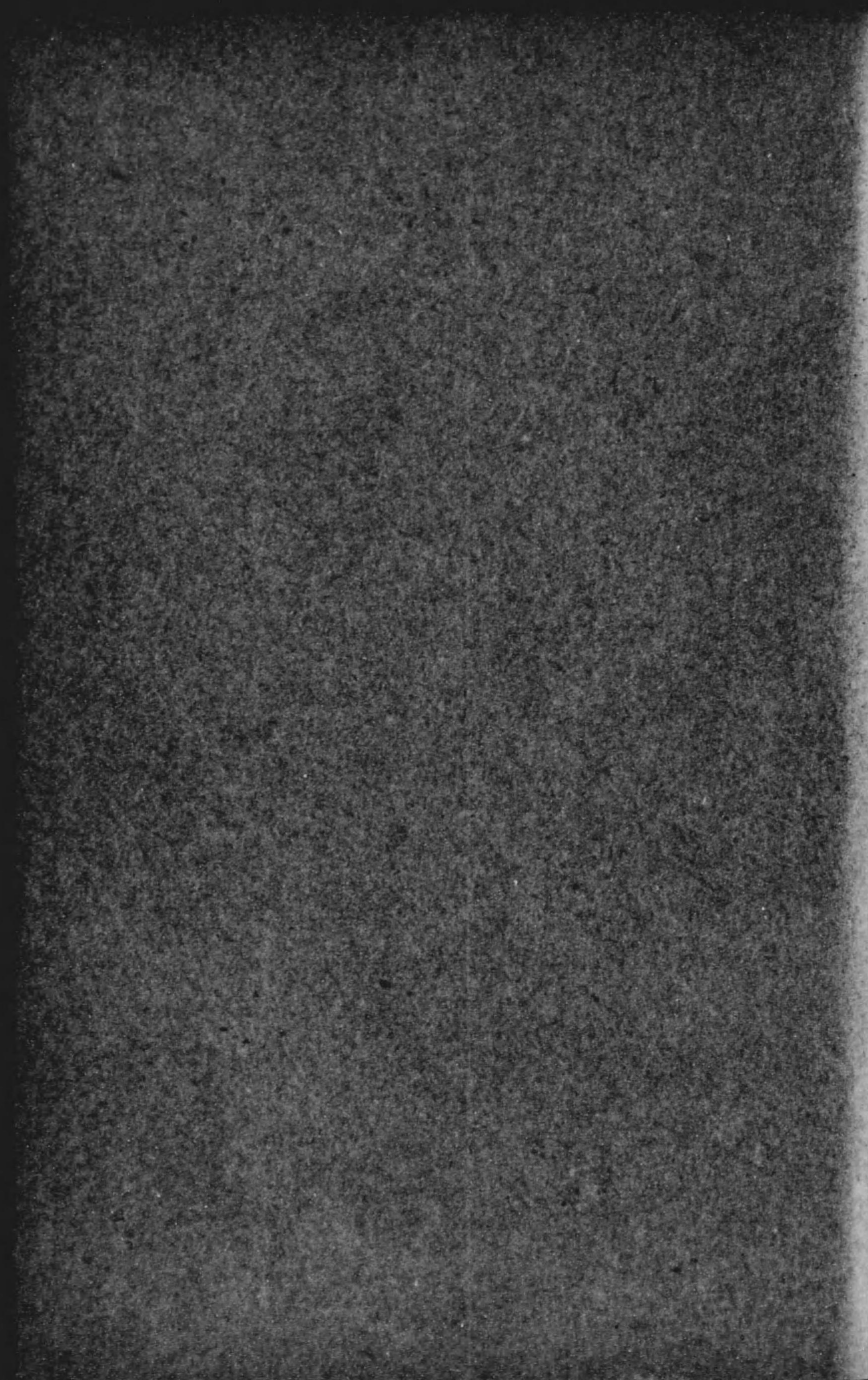
電話(本校) 一七六三番
(寄宿寮) 一九二〇番

印刷人 静岡市中町二十二番地 杓谷真三郎

印刷所 静岡市富士見町三番地 地球堂印刷所
電話一九六六番







283
42

